

横浜市寿町健康福祉交流センター指定管理者選定評価委員会（第2回選定委員会）議事録

日 時	平成30年4月23日（月） 13：30～16：00
開催場所	松村ビル別館501会議室
出席者	新保委員長、石倉委員、長倉委員、松澤委員、村田委員、事務局6名
欠席者	なし
議 題	指定管理候補者の選定
開催形態	非公開
決定事項	次の団体を指定候補者として選定し、市長へ報告する。 公益財団法人寿町勤労者福祉協会 総得点832点／1,000点（最低基準600点）
議 事	<p>1 審査・採点について</p> <p>事務局から以下の2点について説明し、確認した。</p> <p>（1）応募状況と最低基準について</p> <p>1団体から応募があったこと、第1回選定評価委員会で決定した最低基準（全体の得点の60％）に満たない場合は候補者に選定されず、再度公募を行うことになること。</p> <p>（2）評価と採点について</p> <p>採点表を用いて確認した。</p> <p>2 応募団体の審査</p> <p>（1）プレゼンテーション後のヒアリング時の主な質疑応答</p> <p>ア 団体の理念・基本方針</p> <p>（委員）団体に設定されている経営改善委員会のメンバーと内容はどのようなものか。</p> <p>（応募団体）メンバーは法人理事長、各業務の管理職、健康コーディネーターの7名で月2回実施。メンバーからの問題提起について協議し、解決につなげている</p> <p>イ 財務状況</p> <p>（委員）平成28年度決算で、収益減となっているが要因分析はどうなっているか。</p> <p>（応募団体）精神科医療では医師との信頼関係を重視する患者が多いことから、診療所の精神科医師が別の病院に移籍すると患者も移ることがあり、それにより受診者減となったことが大きな要因と判断している。新たな精神科医師の雇用に取り組み、回復させていきたい。</p>

ウ 団体の活動実績等

(委員) 資料「寿地区の変遷と今後の方向」の福利厚生について、これまでの「生活支援」と今後の「居場所」の違いは何か。

(応募団体) 地区内に多く住んでいた日雇い労働者等に対する食堂、物販、夜間銀行等により生活支援を行っていたが、今後は、人との交流機会が少ない高齢者等が狭隘な簡易宿泊所から外に出て交流し、余暇を楽しむ場を提供することが必要であると考えている。

エ 職員の確保・配置及び育成

(委員) 診療所の医師の勤務体制はどうか、また大学病院の医局との連携等、医師を確保するためのルートはあるか。

(応募団体) 診療所長は常勤の内科医であり、精神科医師はすべて非常勤。この地区で大学医局等からの紹介を得ることは難しく、医師専門の人材紹介会社を利用したり、勤務する医師から個人的な紹介を受けたりして確保している。

(委員) トラブル対応に記載してある内容が管理的・防衛的な点しか記載されていないが、現在行っている事業で心がけていることがあるか。

(応募団体) その人の状況に応じて、対話をして丁寧な対応をすることを心掛けている。そのため、診療所には通報ボタン等が設置しているが、使用するに至っていない。

(委員) 地域のネットワークづくりなど新たな役割が求められる中で、施設運営職員数は4名増の14名としているが十分か。

(応募団体) 法人内の職員でシミュレーションして積算した。寿地区という点から人材確保の難航が予想されることや効率性も勘案し、少数精鋭で行う考えである。

オ 施設の適切な利用許可

(委員) 施設の利用許可における公平性の確保と利用促進のための工夫についての考えはあるか。

(応募団体) 利用許可の実績のある地域ケアプラザを参考にして誰もがわかりやすいような基準の案を提案した。また団体登録の制度を用いることで、申込み手続きを簡略化できるようにしたいと考えている。

カ 横浜市の重要施策を踏まえた取り組み

(委員) カルテの管理方法は電子カルテであるか。また他の医療機関へ紹介する場合の情報提供をどのようにするのか。

(応募団体) 電子カルテの導入も検討したが、診療所の規模から電子カルテを導入する必要性は感じておらず、紙カルテと考えている。他院を紹介する場合は、CDR等で情報提供する。

(委員) ハラスメント相談窓口の設置について、相談先と職員への周知の方法はどのようなものか。

(応募団体) 相談先は内部の管理職2名であり、周知の方法は口頭で周知している。

キ 診療所の運営体制

(委員) 医療ソーシャルワーカーの相談体制はどのようなものか。

(応募団体) 2名おり、毎日1名の交代勤務で、相談時間は診療開始から診療終了まで。

ク 健康コーディネート室の運営手法

(委員) 専門職の配置について具体的な考えがあるか。

(応募団体) 1名は団体内でコーディネート業務を行っている保健師を配置し、他は社会福祉職、看護職又は栄養士の配置を想定している。

ケ 1階諸室、広場及び活動交流スペースの運営手法

(委員) 目玉となるような自主事業はあるか。

(応募団体) 寿地区の情報コーナーの設置、障害者団体等の作品展示、地元サッカーチームのPR等の場を提供して地区外の人とも交流を図れる事業を、また多目的室や広場を利用して地区内外の人が参加できるメニュー、楽しめるようなイベントを企画、実施する。

コ 関係機関、地域団体との連携

(委員) 地域ネットワークづくりのため積極的に施設外へ出ていくこと、またネットワークづくりを支える力量が求められるが、人材の確保や育成についてどのように考えているか。

(応募団体) これまで地域防災拠点運営委員会や地区の福祉保健計画推進委員会といった地域の横断的な活動に職員が参加し、また寿地区の行事等の事務局を担うことで地域の関係団体と連携してきた。今後は

これらに加えて健康コーディネート室での活動を通して人材を育成していく。

サ 指定管理料及び施設の課題等に応じた費用配分

(委員) 一般公衆浴場の入浴料で割引制度等は考えているか。

(応募団体) 公衆浴場組合が行っている割引制度を考えている。

(委員) すべて院内処方となるのか。

(応募団体) 院内処方と院外処方の両方を行う。結核や精神科治療においてDOTSと呼ばれる直接監視下短期化学療法を行う必要があるため、午前中は院内処方を行う。

シ まとめ

(委員) 周辺地域との交流・活動を広げていくための具体策があるか。

(応募団体) 現在、約700部作成して近隣地域まで配布している寿地区の地域情報誌について配布範囲をさらに広げ、さらにSNS等を活用して情報発信していくことを考えている。また、地区外の人にも参加しやすい事業を企画し、利用した人が寿地区への関心を深めてもらえるような展示等を行うことを考えている。

(2) 各委員からの講評

- ・ 地域に開かれた施設を目指すことや関連団体と連携し、その全体をコーディネートしていくことが提案されており、積極的な姿勢が感じられた。
- ・ 現状の課題に対する提案だけでなく、寿地区も地域社会の一員として共に発展していくことについて魅力的なビジョンが提案されているかに注目した。提案内容は現状に即した具体的なものとなっていたが、今後の期待も込め、やや厳しい評価とした。
- ・ センターは、地域の活性化の拠点、住民の拠り所となると思う。住民一人ひとりの尊厳を大事にして、地域福祉の発展に貢献するような施設運営を行ってほしい。
- ・ 財務状況は中程度であり、候補者として問題はないと判断する。
- ・ 現在の診療所の運営状況から中評価とした。安定的な診療体制を維持して行ってほしい。
- ・ 横浜市との協働に力を入れてほしい。

	<p>(3) 指定候補者の選定 審査結果</p> <table border="1" data-bbox="491 360 1217 461"> <thead> <tr> <th data-bbox="491 360 951 409">応募団体名</th> <th data-bbox="951 360 1217 409">総得点</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td data-bbox="491 409 951 461">公益財団法人寿町勤労者福祉協会</td> <td data-bbox="951 409 1217 461">832点</td> </tr> </tbody> </table> <p>※ 満点1,000点（各委員200点×5名）</p> <p>以上により、公益財団法人寿町勤労者福祉協会を指定候補者として市長へ報告する。</p>	応募団体名	総得点	公益財団法人寿町勤労者福祉協会	832点
応募団体名	総得点				
公益財団法人寿町勤労者福祉協会	832点				
<p>資 料</p>	<p>資料1 （事前送付資料）応募団体から提出された資料 資料2 採点表</p>				